

「小児歯科の理想と現状」

うめづ歯科・小児歯科医院（佐賀市）

梅津 哲夫（うめづ てつお）



●略 歴

1988年 九州歯科大学卒業
1992年 九州歯科大学大学院卒業（小児歯科学専攻）
1992年 博士（歯学）号取得
1992年 医療法人野澤会原町歯科医院勤務
1997年 佐賀市八戸溝にて開業
日本小児歯科学会認定医
佐賀小児歯科研究会会員

少子化という時代を背景に、小児のう蝕歯数は著明に減少してきており、ここ数年来小児歯科専門医の医院経営に対する不安というものが現実化しつつある。これからの小児歯科医療が、う蝕予防と咬合育成を主体としたものになっていくことが予想される中で、我々小児歯科医は何を目指したらよいのか、小児歯科医療の理想とするところは何かということは、我々にとって非常に大きなテーマだと思われる。

しかし一方で、小児のう蝕罹患状況を見ると、う蝕罹患児の2極化と共に、地域差というものが明らかになってきた。即ち、全国の1歳6ヶ月及び3歳児歯科健診結果を見ると、九州地方と東北地方のう蝕罹患状況が最悪であり、特に私の住む佐賀県は10年連続して3歳児う蝕歯数全国ワースト1という不名誉な記録を続けている。

今回のシンポジウムにあたり、小児歯科の現状というものを、まずその地域差というものに焦点を当て、その背景にあるさまざまな要因を分析することにより、今後我々が取り組まねばならない問題点を明らかにしたいと考え、佐賀小児歯科研究会では、いくつかの調査を行った。

1. 佐賀県における3歳児う蝕罹患状況の分析
2. 幼稚園、保育園の保護者に対するアンケート調査
3. 佐賀県内小児歯科学会会員へのアンケート調査
4. 佐賀小児歯科研究会会員における小児に対する診療内容の分析

これらの調査を通じ、歯科医療を受ける側の子供達の生活環境、保護者の衛生意識、さらに歯科医療を担当する側の歯科医師の取り組み方などを分析することにより、地方における小児歯科の現状とそれを取り巻く環境について考えてみた。また、小児に対する診療内容についても、佐賀小児歯科研究会のデータと大都市である東京におけるデータを比較し若干の知見を得たので併せて報告する。以上のような事柄を踏まえて、これからの小児歯科のあるべき姿、そしてこれからの小児歯科の理想のあり方について考えてみたい。